

[問題 1.10] 1 から 10 までの数を記入した札 10 枚から 1 枚を取り出す試行において、次の事象を示せ。

- (1) 標本空間  $\Omega$
- (2)  $A =$  「取り出した札の数が奇数である」
- (3)  $B =$  「取り出した札の数が 6 の約数である」
- (4) 「取り出した札の数が奇数であるかまたは 6 の約数である」
- (5) 「取り出した札の数が奇数でありかつ 6 の約数である」

[解答 1.10] (1)  $\Omega = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10\}$

(2)  $A = \{1, 3, 5, 7, 9\}$                       (3)  $B = \{1, 2, 3, 6\}$

(4) 「(4)の事象」 =  $A \cup B = \{1, 2, 3, 5, 6, 7, 9\}$

(5) 「(5)の事象」 =  $A \cap B = \{1, 3\}$

● 第3回の講義の出席確認用問題（今回は、教科書の問題ではなく次の問題とします。）

[第3回の問題]

-8 から 8 までの整数を記入した札 17 枚から 1 枚を取り出す試行において、次の事象を示せ。

- (1) 標本空間  $\Omega$
- (2)  $A =$  「取り出した札の数が 2 の倍数である」
- (3)  $B =$  「取り出した札の数が 3 の倍数である」
- (4)  $C =$  「取り出した札の数が 8 の約数である」
- (5)  $(A \cup C) \cap B$

注意：次を参考にするるとよい。 $-6 = -3 \times \underline{2} = -2 \times \underline{3}$ なので、 $-6$ は  $A \cap B$  の要素である。また、0 はすべての整数の倍数である。

この [第3回の問題] を解いて、画像データのファイルに変換しメールに添付し提出する事。

メールアドレス kazunori@horibe.jp

タイトルは『大同大・確率統計、「学籍番号」、「氏名』と明記すること。

〆切は基準の日程（木曜・午後の講義計画）の直後の日曜日の正午（12:00）までとします。